

農業委員会によるタブレットの活用事例（令和6年3月）

新潟県胎内市農業委員会

【概要・活用状況】

- ✓ 全農業委員・推進委員分22台を導入
- ✓ 目標地図の素案作成のための意向調査、3条等の申請対象農地の現地調査（現地確認アプリ）、活動記録簿に活用

【操作研修の実施方法】

- ✓ 総会終了後の1時間程度を活用し、会議所の操作マニュアル等を用いて6回実施
- ✓ 研修を隔月で実施することで、継続的にタブレットの活用を浸透

【活用による効果・メリット】

- ✓ 郵送による意向調査を行った後、未回答がある者への未回答部分の確認に際し、タブレットを活用
- ✓ 訪問時に把握した出し手の売却意向を受けて、担い手へのあっせんを実施
- ✓ タブレットで活動記録を入力することで、委員の紙面管理や事務局の集計作業が不要



島根県益田市農業委員会

【概要・活用状況】

- ✓ 全農業委員・推進委員分40台を導入
- ✓ 3条等の申請対象農地の現地調査（現地確認アプリ）、活動記録簿、総会資料のデータ配布に活用

【操作研修の実施方法】

- ✓ 総会終了後の30～60分程度を活用し、県会議が作成した操作マニュアルに加え、事務局作成の同書によりR5年に4回、この他、随時個別説明を実施

【活用による効果・メリット】

- ✓ 現地確認では、
 - ① 土地勘のない農地も予め農地の位置を確認できる
 - ② 現地では、GPSにより調査対象農地の把握が容易である
 - ③ 農地の状況を画像で残せて、容易に共有できる
- ✓ 活動記録簿については、慣れれば難しくはなく、紙の管理が不要



山口県長門市農業委員会

【概要・活用状況】

- ✓ 全推進委員分21台を導入
- ✓ 目標地図の素案作成のための意向調査、農地パトロールでの現在地確認（現地確認アプリ）等に活用

【操作研修の実施方法】

- ✓ 旧市町区域別に開催する農地利用最適化推進地区別会議終了後の時間を活用し、会議所の操作マニュアルを用いて2、3回実施
- ✓ 個別の研修は随時実施、事前予約を受け対面形式で職員1人が対応

【活用による効果・メリット】

- ✓ 意向調査について、
 - ① その場で回答を入力できる
 - ② 回答に応じて必要な設問のみが、自動で表示されるので、紙面の郵送等の調査より回答漏れが少ない
 - ③ 調査結果が、サポートシステムに直接反映されるため、事務局の入力作業が不要

